「22世紀の資本主義
～やがてお金は絶滅する～」

著者：成田　悠輔
出版：文春新書
発行：2025年２月20日

「お金」と「資本主義」の再定義に挑む、挑発的思考の書

「お金は夢であり、悪夢でもある」。本書は、成田悠輔氏のこの印象的な言葉から始まる。私たちが日々追い求め、同時に振り回されている「お金」という存在。その二面性に鋭く切り込む本書は、資本主義の未来像を大胆に描き出す。

成田氏は、現代の経済システムを「暴走資本主義」と呼び、売上ゼロでも高い時価総額を誇る企業や、仮想通貨の高騰など、経済的超常現象に満ちた現状を批判的に捉える。こうした煽り型の経済は、デフレ化する現在とインフレ化する未来を同時に生み出す「ジェットコースター」だと指摘する。

本書の核心は、「お金の終焉」という大胆な問いにある。心身や人格までもがデータ化される未来において、物量としての「お金」による価値判断は意味を失う。成田氏は、資本主義の根幹が揺らぎ始めていることを示唆し、教育・経済・社会のあり方を根本から問い直す。

教育現場に身を置く者として、本書の示唆は極めて重要だ。従来の経済学や商業教育が前提としてきた「お金中心の価値観」は、すでに現実との乖離を始めている。著者が紹介する「一物多価」システムの事例は、価格と価値の関係が流動化する未来を予感させる。

本書は、単なる経済書ではない。哲学的な問いかけと社会批評を通じて、読者に「お金とは何か」「資本主義とは何か」を再考させる。高校生・大学生にとっては、経済を学ぶ入口として、また教育者にとっては授業の再構築

のヒントとして、極めて有益な一冊である。

「煽り資本主義」の終焉を見据え、より幸せな経済社会の実現に向けて、私たちは何を教え、何を学ぶべきか。本書はその問いを、静かに、しかし力強く投げかけている。

起業教育研究会　企画委員
兵庫県立長田商業高等学校
主幹教諭　清水　秀樹